

令和4年度自己評価シート(中間評価)

学校名 三次市立三次中学校

【経営理念】

ミッション(使命):「生徒の進路選択の幅の拡大と希望進路の実現」を図り、持続可能な地域を形成する人材を育成する。

学校教育目標 : 自律と貢献の志を持ち、主体的に進路を選択する生徒の育成

～ 一所懸命が好き! 夢と志を持ち 輝く 私たち ～

達成度	達成値	× 100	評価	A ≥ 100
	目標値			80 ≤ B < 100
				60 ≤ C < 80
				D < 60

中期経営目標							
	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	目標値	評価	達成状況	担当部等
確かな学力の育成	1 主体的な学習による学力の向上						
	基礎学力の定着・向上	①市立三次中授業スタイル(SMP)を基盤とした学習者起点の授業研究の実施, 研究成果を各教科へ広げる取組 ②学力調査, 定期試験を目標, 検証軸とした短期 PDCA サイクルによる取組 ・課題把握に基づく具体的目標設定と取組 ③課題発見・解決過程のある単元づくりの推進	・定期試験における知識・技能, 思考・判断・表現の観点達成率 ・市学力検査(平均正答率と30%未満生徒の割合)	・各教科の知識・技能60%以上, 思考・判断・表現力50%以上 ・実施教科全てで経年比較において前年度を超える, 30%未満生徒のべ7%	C	一学期末, 知識・技能12/15, 思考・判断・表現11/15 二学期中間, 知識・技能11/15 思考・判断・表現9/15 学力検査は未実施	教務部
育成すべき資質・能力の向上	①特に育成を目指す資質・能力(「3つの力」)の継続的な育成・向上 ・育成すべき資質・能力を, 生徒教職員が共有した 各教科・領域・行事等への取組 ・各教科・領域・行事等への取組における変容の検証 ②各種検定, コンクールへの応募・挑戦 ・各種検定(漢検・数検・英検等)やコンクール等への挑戦 ・計画的なコンクールへの応募	・自校の質問紙「3つの力アンケート」 ・総合質問紙調査(コミュニケーション能力・協調性・主体性) ・各種検定受検生徒の割合	肯定的評価80%以上 3つの資質・能力にかかわる項目, 全国平均以上 延べ受検率50%以上	A	「3つの力アンケート」6項目とも80%以上。総合誌調査3項目とも全国平均以上。述べ受検者86名。(漢検41名, 数検9名, 英検36名)		

【評価結果の分析】

定期試験における観点の達成率は, 知識・技能, 思考・判断・表現とも70%前後で十分に目標を達成しているとは言えない。一学期期末試験に比べ, 二学期中間試験の方が目標値に達成していない教科・観点が多い。また全国学力調査においては3教科とも全国平均を下回り, 実力テストにおいても全国平均を下回る教科が多かった。各学年とも, 前向きに学習に取り組む生徒と, 家庭学習の習慣がほとんど定着しておらず, 試験に対しても前向きに取り組まない生徒の差が大きくなる傾向にあり学力の2極化が顕著である。個別面談や家庭連絡などを行っているがなかなか目に見える成果が見られないのが現状である。

資質・能力についてはアンケート・総合質問紙調査ともに目標値を上回った。各種検定では, 漢字検定・英語検定とも3割程度の生徒が受検しているが, 数学検定は少人数に終わっている。

【今後の改善方策】

3年生においては, 多くの生徒の部活動が終了したこともあり, 数学を中心に放課後学習を開始したことで少しずつではあるが基礎的な力が付き始めている生徒もいる。また, そのことが学年全体の学習意欲の向上にもつながっているため今後も継続して取り組みを進めていきたい。他学年においても, 学年だけでなく各教科からの声掛けを継続していく。また検定は今後も実施されるので, 積極的に声掛けをして受検する生徒を増やしていきたい。

2 社会性, モラルの向上

豊かな心の育成

生徒指導諸問題の未然防止	①生徒指導規程の周知徹底と一貫指導 ・生徒指導規程の全家庭への配布, 学校総会等での説明 ・生徒指導規程をもとにした全教職員での統一的な生徒対応(特別な指導を含む) ②生徒理解と即時の組織的な対応 ・教育相談委員会, 生徒指導部会の定例化 ・スクールカウンセラーの積極的な活用 ・各学期における教育相談ウィーク及び生徒・保護者アンケートの実施 ・全職員による校内巡回及び生徒への肯定的な声かけ	・問題行動の状況と対応(前年度比較) ・不登校生徒数	昨年度以下 昨年度以下	B	・いじめ認知1件(解決済)(昨年度の同時期1件) ・不登校生徒数3名(昨年度の同時期3名) ・問題行動3件(昨年度の同時期は生徒指導諸問題4件)	生徒指導部
		・諸問題認知解決指導100%	100%			
生徒会活動の活性化	①日常的な委員会活動の充実 ・「みよしっ子あいさつ運動」の実施 ・生徒会各委員会から2項目以上の企画提案 ・生徒会執行部会の定例化(週1回) ・部活動部長会の定例化(月1回) ②人間磨きの場としての部活動 ・指導者の積極的参加と指導 ・生徒が自ら考え実行, 反省できる活動	・委員会活動実施状況(各委員会からの企画, 実施) ・生徒満足度	各委員会1回以上 肯定的評価80%以上	C	・各委員会の取組 ①学級委員会 →あいさつ運動 ②生活委員会 →あいさつ運動 ③ボランティア委員会 →ペットボトルキャップ集め →ベルマーク集め ④図書委員会 →本の紹介放送 ⑤文化委員会 →昼食時の放送 ・「生徒会活動・学校行事への取組」肯定的評価77.7% ・総合質問紙調査各項目の肯定的評価 ・計画性47.6%, ・目標設定78.2% ・自己認識75.0% ・社会性77.0%	生徒指導部
		・総合質問紙調査(計画性・目標設定)質問紙調査(自己認識・社会性)	各項目80%以上			

【評価結果の分析】

- ・生徒指導上の諸問題においては, 年度初めに立て続けに発生したが, 本人への指導及び保護者連携, 関係機関との連携を行い, 解決している。昨年に引き続き, 校内巡回を積極的に行い, 隙間時間を無くすとともに, 積極的に生徒への声掛けを行うことで問題行動への未然防止につながっている。また, 日ごろの生活や行事への取組の時に肯定的な声掛けや評価を繰り返すことで生徒の自己肯定感も高まり, 生徒指導上の諸問題の未然防止につながっている。
- ・不登校生徒及び長期欠席生徒については, 担任を中心に, 保護者, 生徒とのつながりをきらさないように定期的な家庭訪問や家庭連絡を行っている。また状況に応じて養護教諭や管理職も家庭訪問や家庭との連携を行い, 学校全体で関わりをもつようになっている。また, 教育相談委員会で現状の取組や状況をもとにSCから今後の取組についてのアドバイスをもらい, 見通しを持って取り組めるようにしている。
- ・いじめ認知については, 黒板係の仕事をしていた被害生徒(男子)が消している最中に, 加害生徒(男子)が黒板に落書きをしたり嫌がらせを行うという事案が発生したためいじめ認知とした。被害生徒は, 事案による精神的苦痛や不登校には至っていない。全体的な取組としては, i-check やいじめアンケートを実施し, その結果をもとに, 生徒全員の面談を各学年会を中心に行った。
- ・生徒会活動については, 執行部会, 部長会を定期的に関き, 各委員会活動や各行事に向けて計画的に取り組みを進めている。

【今後の改善方策】

- ・生徒指導の諸問題においては, 相手を思いやる気持ちや自分を大切にすることを高めるために, 道徳の授業の充実や行事や日々の授業, 部活動等で生徒の頑張りをしっかりと評価し, 自己肯定感を高めていく。
- ・不登校生徒および長期欠席生徒については, 今後も担任を中心に行っていくが, 学校全体で情報共有し取組を進めていく。
- ・いじめ認知については, 2・3学期も定期的なアンケート実施し, 生徒全員の面談を実施していく。また, 日常的に生徒への声掛けを行い, 少しの変化も見逃さないようにする。
- ・生徒会活動を充実させるために, これまで通り執行部会を定期的に関催していく。また, 学校行事等の中でも生徒会を中心に生徒が自主的・主体的に活動できる場を設け, 生徒の自己肯定感や自己存在感, 自己有用感の育成に努めていく。

3 生活習慣の定着と体力の向上							
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の充実	① 生活づくり週間の取組の実施 ・定期試験期間中に生活づくり週間の取組を行う。(起床時刻, 就寝時刻, 学習開始時刻の三点と, 学習時間, メディア利用時間, 朝ごはん摂取) ②①の結果について資料を作成し, 保護者啓発を行う。 ③みよし学園健康教育部会の取組を三次中学校区で共通して実施する。	三点固定が定着した生徒の割合(生活アンケート) メディアコントロール実施達成率(生活アンケート)	70%以上 肯定的評価 60%以上	C	学校生活アンケート 「三点固定が定着している」 生徒…66.9% (昨年度80.8%) 保護者…73.8% (昨年度70.3%) 「メディアの利用時間の短縮を意識している」 生徒…40.5% 保護者…26.2%	健康安全全部
	健康安全意识と体力の向上	①体力づくりの工夫・充実 ○保健体育の授業における工夫・充実 ・主運動と関連付いた体づくり運動の計画的実践 ・新体力テストのフィードバックと個々の体力に応じた運動プログラムづくり ○運動部活動における体力づくり ②安全教育の工夫・充実 ・委員会等を活用したけがの予防に係る安全指導	・体力・運動能力調査(国・県平均以上の生徒割合) ・スポーツ振興センター災害共済利用割合	B評価以上の生徒が50%以上 前年度比±10%以内	C	4月に実施した体力・運動能力調査の結果(B評価以上の生徒の割合) 44.4% 男子:21.7% 女子:72.7% スポーツ振興センター災害共済利用件数(9月末現在) 13件 (R3年度14件) ※()内は前年度の同時期	健康安全全部

【評価結果の分析】

- ・体力・運動能力調査において、全体での総合評価B以上の生徒の割合は、目標である50%以上に到達していない。また、昨年度に比べて減少している。(49.2→44.4%)
- ・男女別に見ると全学年女子の割合は72.7%、全学年男子は21.7%と男子の達成率が低い。
- ・運動部活動等に所属し、継続的に運動に親しんでいる生徒の割合は全国平均と比べると多いが、1日の運動・スポーツの実施時間は短い傾向が見られる。
- ・学校生活アンケートの結果から、三点固定が定着している生徒の割合は、70.4%だった。昨年と比較すると生徒の肯定的回答が減少している。
- ・メディアの利用時間に関する質問を「時間を意識していますか」から「利用時間の短縮を意識していますか」に変更した。「短縮を意識している」という保護者の割合は26.2%で、生徒と保護者の回答の差が大きかった。
- ・9月末までのスポーツ振興センター災害給付金の対象件数は13件だった。運動時の怪我がほとんどで休憩時間中の怪我は減少している。

【今後の改善方策】

- ・生活アンケート調査では、午後10時までに就寝する生徒は2割に満たない。生徒の約6割は11時以降に就寝している実態である。ゲームやスマホ等の利用時間が長く、十分な睡眠時間や学習時間が確保できていない状況がある。教務部と連携し、帰宅後の時間の使い方等を指導していくとともに、「ストップ9」の取組をPTAと連携しながら進めていく。

4 本市の代表校としての関心度・信頼度の向上							
信頼される学校	小中一貫教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①校区を教材化した、まちガイド実施を柱とした教育課程の展開 ②小学校と連携した児童生徒交流活動の計画実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルカリキュラムの生徒満足度 (各学年) ・小中交流活動の実施回数 	70%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生総合的な学習の時間では、地域の方々を講師に迎えての地域学習を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、小中合同のあいさつ運動やボランティア活動を行うことができた。「ペアやグループでの活動に積極的だ」生徒 90.1% 	総務部
	学校への満足度・信頼度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①学校、学年(学級)、保健、生徒指導等の各種通信の計画発刊とホームページ更新 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上 ②各種メディアを通じた積極的情報発信 ③学校運営協議会を核とした日常的な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校に入学してよかったと思う生徒・保護者の割合 ・保護者・地域関係者の学校支援活動参加数 	90%			

【評価結果の分析】

- ・みよし学園（小中一貫事業）における交流活動として、合同のあいさつ運動や、ボランティア活動を2年ぶりに実施することができた。
- ・コミュニティスクールにおいての地域との連携を活かし、総合的な学習を中心に地域の方々を講師に迎えての活動を積極的に行っている。
- ・「本校に入学してよかった」と回答した生徒は中間評価（96.7%）であった。また、保護者の中間評価（98.1%）と高い水準を保っている。
- ・各種通信やマメールによる情報発信は月1回以上実施している。ホームページ更新も担当者が定期的に更新している。

【今後の改善方策】

- ・今後も、保護者、地域からの学校教育活動に対する支援を頂けるよう、各種通信やメディアを通じた情報発信を続け、学校への満足度・信頼度の向上を図る。
- ・コロナウィルス感染防止対策を行いながら、様々な活動を積極的に行い、保護者が来校できる機会を設けていく。